



2020年10月21日（水）

## 医療関係団体「乳幼児健診の充実を」 成育基本法議連がヒアリング

2020年10月15日 19:02

超党派の成育基本法推進議員連盟（自民・河村建夫会長）は15日、子どもの医療に携わる医療関係者からヒアリングした。疾患等の早期発見に向けて、乳幼児健診の充実を求める意見が上がった。事務局長の自見英子参院議員（自民）は「感覚器を含めた健診の充実は議連の大事な項目だ」と述べ、実現に向けて活動していきたいとした。

日本眼科医会の白根雅子会長は弱視の見逃しをなくすため、3歳児の眼科健診に屈折検査を導入するよう要望した。家庭での視力検査の精度の低さや幼児自身が不自由を感じないことから見逃しが起きやすいとし、客観的に判断できる屈折検査を実施するよう求めた。信濃医療福祉センターの朝貝芳美理事長は、乳児股関節脱臼検診と肢体不自由児の医療・療育の現状を説明し、医療施設の拠点化や人材育成などが必要だと主張した。慶応大医学部整形外科教室の渡辺航太准教授は、側彎症の早期発見の重要性を強調し、学校健診に課題があると指摘。検査機器の導入を全国で義務化、統一化すべきだなどと提言した。

厚生労働省子ども家庭局の小林秀幸・母子保健課長は、施策推進に向けた基本的事項をまとめた成育医療等基本方針について「近々に閣議決定していく方向で調整を進めている」と述べた。小林課長と文部科学省からはPHRの進捗状況なども報告された。

MEDIFAX 2020年10月15日掲載 [許諾番号 20201021\_01]

株式会社じほうが記事利用を許諾しています。

All documents, images and photographs contained in this site belong to JIHO, Inc.  
Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.  
Copyright (C) JIHO, Inc.

株式会社じほう